

# 大豆・麦二毛作のための立毛間播種作業機

## 研究のねらい

大豆・麦の二毛作により生産性の向上を図ることができるが、北東北などの寒冷地域では作期が競合するため困難である。春と秋に間作期間を設けると、二毛作が可能になるが、前作物立毛中の条間に播種するための作業機が市販されていなかった。そこで、立毛間播種技術の普及に向けて播種作業機を開発する。

## 研究の成果

作溝ディスクを使用した不耕起型播種機であり、一部パーツを交換して大豆と麦の両方を播種（3条）することができる（図1、表1）。条間隔は50～75cmに設定できる。

12kW（16PS）以上の出力の乗用管理機に装着して使用する（図2）。乗用管理機は前・後輪直前分草桿を備え、作物列を跨ぐ形で畝間を走行する。

麦収穫コンバインによる大豆苗踏圧を回避するために、中央条の施肥播種ユニットを動かし、不等条間で大豆を播種する機能を備えている。

本機の作業能率は10～30a/hである。施肥装置を増設すれば1回の補給で20～50aを作業でき、大規模圃場にも適応する。

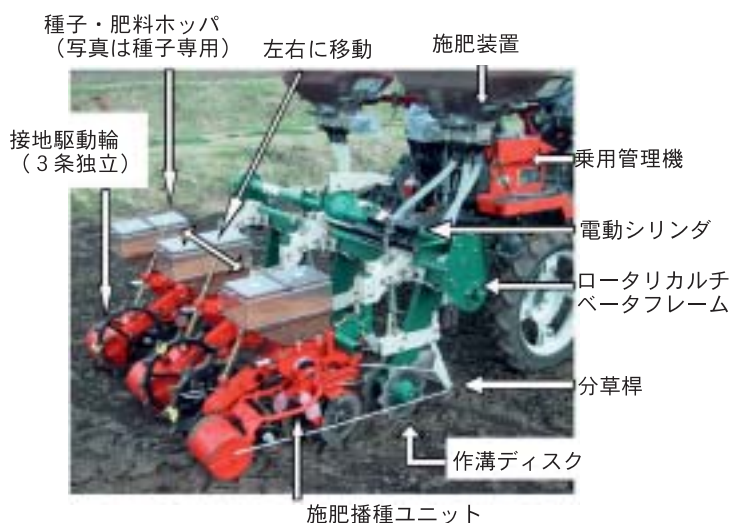


図1 開発機



図2 立毛間播種機全景

表1 主要諸元

全長	1500mm
乗用管理機・分草桿を含む機体全長	4700mm
全幅	1950mm
最低地上高	600mm
質量	290kg
作業条数	3
適応基本条間	500～750mm
種子ホッパ容量	13.5L
（施肥装置増設時）	（45L）
施肥ホッパ容量	27L
（施肥装置増設時）	（100L）
作業速度	0.3～0.8m/s
圃場作業量	10～30a/h

## 成果の利活用

寒冷地における圃場利用効率を倍増させ、大豆・麦を合わせた生産性を向上させる。

本機は、農作業機メーカーから市販されている（（株）ササキコーポレーション、RT300RH）

## 成果の発表年 平成13年度

（問合せ先：総合研究部 農業機械研究室 019-643-3535）